

MOTOR SPORT REPORT

2017年 WRC（世界ラリー選手権） 第9戦 ラリー・フィンランド

ヤリス WRC に PIAA ライティングシステムおよび撥水ワイパーを供給！
18年ぶりに WRC に復帰したトヨタをオフィシャルテクニカルパートナーとしてサポート



第9戦 ラリー・フィンランドで初優勝の#12 ラップ、フェルム組

第1戦のモンテカルロで2位につけるほか、第2戦のスウェーデンを制覇！
第9戦のフィンランドで凱旋勝利を飾るなどトヨタ陣営が猛威を發揮



1-3フィニッシュの TOYOTA GAZOO Racing



TOYOTA GAZOO Racing スタッフ全員で歓喜の記念撮影

■概要/Outline

国内外のレースシーンで豊富な実績を残してきた PIAA は、ラリー競技においても最前線で活躍している。1982年にタイヤメーカーのヨコハマと「ADVAN PIAA ラリーチーム」を結成し、JRC（全日本ラリー選手権）に参戦するほか、1984年に三菱、1986年にフォードをバックアップするなどラリー競技の最高峰シリーズ、WRC（世界ラリー選手権）にも参戦。その後も日産、トヨタがサファリラリーで PIAA のラ

イティングシステムを採用するほか、1990年代以降もスバル、三菱のオフィシャルサプライヤーを担うなど、ラリーシーンにおいても名門として定着、その技術力は今もなお健在でチーム関係者から高い評価を頂いております。



2005年 Lancer WRC 05



2006年 PWR ADVAN-PIAA Lancer



2007年 IMPREZA WRX

事実、2009年には名門フォード（M-SPORT）ヘライティングシステムおよびシリコンゴム撥水ワイパーをオフィシャルサプライヤーとして供給するほか、2012年にはMINIの開発チームとして活動していたプロドライブWRCチームをサポート。さらに2014年には同年よりWRCに復帰したヒュンダイ・モータースポーツヘライティングシステムの供給を開始したことは記憶に新しい。



2009年 Ford Focus WRC



2012年 MINI WRC



1982年 ADVAN-PIAA Lancer

そして、2017年のWRCにおいてもPIAAは最前線で活躍しており、18年ぶりにWRCへ復帰したトヨタのワークスチーム「TOYOTA GAZOO Racing World Rally Team」へ開幕戦のラリー・モンテカルロよりライティングシステムを供給するほか、第7戦のラリー・イタリア・サルディニアからはシリコンゴム撥水ワイパーを供給。オフィシャルテクニカルパートナーとして同チームをサポートするなど、まさにPIAAのライティングシステム、撥水ワイパーはWRCにおいてもトップブランドとして定着している。

■チーム体制／TOYOTA GAZOO Racing World Rally Team

1957年のオーストラリア1周モービルガスラリーにトヨペット・クラウンを投入するなど、黎明期より国際ラリーで活躍してきたトヨタは、オベ・アンダーソンをパートナーに創設初年度の1973年よりWRCへ参戦を開始。セリカ、カローラ・レビンで活躍するほか、グループB規定が導入された1983年にはセリカ・ツインカムターボを投入しており、1984年から1986年にかけてサファリラリーで3連覇を達するなど豊富な実績を残している。



1990年 WRC サファリラリー優勝のセリカGT-FOUR (ST165)

1987年からグループA規定が導入されるとトヨタはST165セリカで躍進し、1990年にはカルロス・サインツがドライバーズチャンピオンを獲得。1992年にはST185セリカを投入しており、サインツが同年のシリーズで2度目のチャンピオンに輝くほか、1993年にはユハ・カンクネン、1994年にはディディエ・オリオールらがドライバーズ部門でタイトルを獲得するとともにマニファクチャラーズ部門でもタイトルを獲得した。

1997年にWRカー規定が導入されると1996年に活動を休止していたトヨタもカローラWRCで復帰を果たし、1999年には3度目のマニファクチャラーズタイトルを獲得している。

まさにトヨタはラリーシーンにおいて輝かしいリザルトを築いてきているのだが、そのラリーの名門メーカーがついに2017年より最高峰シリーズのWRCに復帰した。

今季よりWRCに復帰するTOYOTA GAZOO Racing WRTは、1996年から1999年にかけて三菱のワークスドライバーとして4連覇を果たした経験を持つトミ・マキネンをチーム代表とする新しいチームで、ドライバーにはフォードおよびフォルクワーゲンのワークスドライバーとして活躍してきたヤリ・マティ・ラトバラをエースとして起用するほか、PWRC（プロダクションカー世界ラリー選手権）やERC（ヨーロッパラリー選手権）を経て、2014年にはヒュンダイのワークスドライバーとして活躍してきたユホ・ハンニネンをセカンドドライバーとして起用。さらにシュコダのワークスドライバーとして2014年のERCでチャンピオンに輝くほか、2016年のWRC2でタイトルを獲得したエサペッカ・ラッピを第6戦のラリー・ポルトガルよりサードドライバーとして起用するなど、いずれも抜群のスピードを持つフィンランド人ドライバーをラインナップしている。

そしてTOYOTA GAZOO Racing WRTの参戦マシンが2017年のレギュレーション変更に合わせて開発されたヤリスWRCで、文字どおり、ヤリス（日本名：ヴィッツ）をベースに最新テクノロジーが凝縮されたマシンとなる。なかでも、大胆なエアロフォルムが同マシンの特徴で、ラトバラによれば「まだまだセットアップが必要だけど、パフォーマンスは高いレベルにある」とのことで、TOYOTA GAZOO Racing WRTは復帰イヤーから上位争いを展開している。

■2017年のWRC

2016年に4連覇を達成したフォルクスワーゲンが撤退しながらも4メーカーの主力チームが集結。2017年のWRCは大胆なエアロの装着にリストラクターの拡大、アクティブセンターデフの採用などテクニカルレギュレーションの変更に合わせて各チームともにニューマシンを投入していることから、まさに新時代の幕開けとなっているが、そのなかで最も注目を集めているチームと言えば、PIAAがオフィシャルテクニカルパートナーとしてサポートするTOYOTA GAZOO Racing WRTだと言えるだろう。

同チームは文字どおり、トヨタのワークスチームで18年ぶりにWRCに復帰。チーム代表を務めるのはトミ・マキネンで、ヤリ・マティ・ラトバラとユホ・ハンニネン、そして第6戦のポルトガルからはエサペッカ・ラッピをドライバーとして起用するなど、フィンランドを拠点とする新体制のチームとなっている。

参戦マシンはヤリス（ヴィッツ）をベースに開発された新型WRカーのヤリスWRCで、テスト段階から抜群のパフォーマンスを披露。そのことを証明するように開幕戦のラリー・モンテカルロでラトバラが2位入賞を果たしたほか、続く第2戦のラリー・スウェーデンでは同じくラトバラが今季初優勝を獲得し、トヨタに18年ぶりの勝利をもたらしたことは記憶に新しい。

その後はマシントラブルに祟られるシーンも見られたが、第4戦のツール・ド・コルスで4位につけるほか、第7戦のラリー・イタリア・サルディニアで2位入賞を果たすなど、エースであるラトバラが上位争いを展開している。ハンニネンの最上位は第7戦・サルディニアの6位に留まるものの、ラッピが同ラリーで4位に入賞。「開幕2戦で良いスタートが切れた。最初のグラベルイベントのメキシコではトラブルもあったけれど、すぐに対策することができた。ここまではいいステップになっている」とチーム代表のマキネン

が語るように、まさに TOYOTA GAZOO Racing WRT にとって順調な前半戦と言えるだろう。

それだけに後半戦においてもトヨタの躍進が注目を集めた。なかでも、約 4 週間のサマーブレイクを経て 7 月 27 日から 30 日に開催された第 9 戦のラリー・フィンランドは、トミ・マキネンがチーム代表を務める TOYOTA GAZOO Racing WRT、そして、3 名のドライバーにとってホームイベントにあたる。当然、母国ラウンドでの凱旋勝利が注目されるなか、トヨタ陣営の 3 台のヤリス WRC はその期待に応えるようにラリー序盤から素晴らしパフォーマンスを披露していた。



ラリー・フィンランドはジャンプポイントが多い！

WRCではサービス入口付近で高圧洗浄リフレッシュ！

27日の夕刻にユヴァスキラの市街地で争われたSS1こそ、ラトバラが5位、ハンニネンが7位、ラッピが13位に留まったものの、翌28日より山岳エリアで本格的なラリーが始まるとトヨタ陣営が躍進。なかでも、目覚ましい快進撃を見せていたのが、サードドライバーのラッピだった。12番手スタートと出走順に恵まれたとはいえ、12本中8本のSSでベストタイムをマークし、デイ2を制覇。エースのラトバラも約4.4秒差の2番手で続き、ハンニネンも5番手でデイ2をフィニッシュした。

一方、翌29日のデイ3ではこの日のオープニングステージとなるSS14から5本連続でベストタイムをマークするなど、エースのラトバラが猛追を開始。総合首位に浮上したほか、2番手に後退したラッピに8.5秒のマーヅンを築くなど独走体制を形成していた。それだけに、このままラトバラがラリーを支配するかのよう思われていたのだが、続くSS19で予想外のハプニングが発生。「素晴らしい感触だったが、クルマが止まってしまった」と語るように、ラトバラのヤリスWRCが突然ストップしてしまい、その日の走行を断念することとなったのである。

この結果、「ヤリ-マティ（ラトバラ）のことを考えると複雑な気持ち・・・」と語るラッピが後続に約50秒の差を付けてデイ3を制覇。ハンニネンも3番手で続くなどトヨタ陣営が1-3体制を形成した。



サービスに戻った#10 ラトバラ、アンティラ組



フライングフィン！！ #10 ラトバラ、アンティラ組

その勢いは翌30日のデイ4でも衰えることはなかった。首位のラッピは余裕のクルージングでポジションをキープ、「このリザルトに私も本当に驚いている。こんな素晴らしいクルマを作ってくれたチームに感謝したい」と語るようにラッピがWRC参戦4戦目にしてシリーズ屈指の高速グラベルラリーで自身初優勝を獲得するとともに、TOYOTA GAZOO Racing WRTが今季2勝目を獲得し、スウェーデン戦に続きふたたびポディウムに「君が代」が流れた。

これに続いてハンニネンも3位入賞を果たし、自身初の表彰台を獲得。トヨタ勢は初の母国ラウンドで1-3フィニッシュを果たすなど抜群のパフォーマンスを見せただけに、シリーズ終盤戦においてもPIAAがサポートするTOYOTA GAZOO Racing WRTの動向に注目したい。



3位表彰台のハンニネン、リンドストローム組



優勝の#12 ラッピ、フェルム組



ポディウムの上には日の丸、そして「君が代」が流れた



#12 ラッピ、フェルム組を迎える大勢のファン

■ショートインタビュー

TOYOTA GAZOO Racing WRT/ドライバー

#10 ヤリ-マティ・ラトバラ

「PIAAのライティングシステムはラリーに最適だ。前だけじゃなく、横方向もカバーするなど照射範囲が広いので本当にドライビングがしやすい。それに様々なカラーラインナップがあって、組み合わせで見え方が変わると事も良いところだと思う。」



©TOYOTA GAZOO Racing

TOYOTA GAZOO Racing WRT／ドライバー #11 ユホ・ハンニネン

「PIAA のライティングシステムは本当に明るい。ナイトステージは本当に暗闇のなかを走らなければなら
ないけど安心して走れるよ。それに PIAA の撥水ワイパーブレードも良いと思う。今回のフィンランドでも
デイ 2 で雨が降ったけれど、雨を気にせずに走れたよ。」



©TOYOTA GAZOO Racing

PIAA 製 撥水ワイパーを装着

TOYOTA GAZOO Racing WRT／ドライバー #12 エサペッカ・ラッピ

「WR カーでは PIAA のシステムしか使ったことがないから比較はできないけれど、本当に明るいシステム
だね。眩しいぐらいによく見えるよ。テストから使っているけれどトラブルもないので、ラリーには合っ
ているシステムだね。」



©TOYOTA GAZOO Racing

TOYOTA GAZOO Racing WRT / チーム代表

トミ・マキネン

「すべてのパーツはテストで試してみているものだけを使っているからね。ライティングシステムに関して例外ではなく、テストした結果、本当に良かったので PIAA を採用した。PIAA は三菱でも採用していたから、1990年代から知っていたけれど、その時から信頼性が高かったし、今もパフォーマンスは高いと思う。」



Photo:第1戦モンテカルロでは補助ランプ装着

TOYOTA GAZOO Racing WRT / チーフエンジニア

トム・ファウラー

「テストをした結果、PIAA のライティングシステムがドライバーからの評価が高かったし、実際にパフォーマンスも高かったからね。サプライヤーとして選ばれるのは当然だと思うよ。極めてシンプルなシステムだけど、十分に明るいし、トラブルもないのでラリーには最適なランプだと思う。それと撥水ワイパーブレードのパフォーマンスも実にいい。テストの時からとても良かったよ。」



シーズン途中よりテストを実施し、PIAA 撥水ワイパーを第7戦イタリア以降採用！

■Result

ラリー・フィンランド総合結果

1	エサペッカ・ラッピ/ヤンネ・フェルム (トヨタ ヤリス WRC)	2h29m26.9s
2	エルフィン・エバンス/ダニエル・バリット (フォード フィエスタ WRC)	+36.0s
3	ユホ・ハンニネン/カイ・リンドストローム (トヨタ ヤリス WRC)	+36.3s
4	チーム・スニネン/ミッコ・マルックラ (フォード フィエスタ WRC)	+1m01.5s
5	クレイグ・ブリーン/スコット・マーティン (シトロエン C3 WRC)	+1m22.6s
6	ティエリー・ヌービル/ニコラス・シルソー (ヒュンダイ i20 クーペ WRC)	+1m33.1s
7	オット・タナック/マルティン・ヤルヴェオヤ (フォード フィエスタ WRC)	+1m53.6s
8	クリス・ミック/ポール・ネーグル (シトロエン C3 WRC)	+3m12.6s
9	ダニ・ソルド/マルク・マルティ (ヒュンダイ i20 クーペ WRC)	+4m11.5s
10	マッズ・オストベルグ/トースタイン・エリクソン (フォード フィエスタ WRC)	+4m21.2s
21	ヤリ-マティ・ラトバラ/ミーカ・アンティラ (トヨタ ヤリス WRC)	+20m15.8s

ドライバーズランキング

1	ティエリー・ヌービル	160
2	セバスチャン・オジェ	160
3	オット・タナック	119
4	ヤリ-マティ・ラトバラ	114
5	ダニ・ソルド	84
6	エルフィン・エバンス	79
7	クレイグ・ブリーン	53
8	ハイデン・パッドン	51
9	ユホ・ハンニネン	46
10	エサペッカ・ラッピ	45

マニュファクチャラーズランキング

1	M スポーツワールドラリーチーム	285
2	ヒュンダイ・モータースポーツ	251
3	TOYOTA GAZOO Racing WRT	193
4	シトロエン・トタル・アプダビ・ワールドラリーチーム	135

※上記は第9戦 フィンランド終了時点のポイント、ランキングです。

■Photo Gallery



ラップ選手への応援団



SS とSS の間のリエゾン区間も景色がキレイ



サービスでは3台の Yaris WRC を整備中



ドライバーのサインもわかりやすい



TOYOTA GAZOO Racing のサービスパーク



サービスのピット前にはたくさんのファン

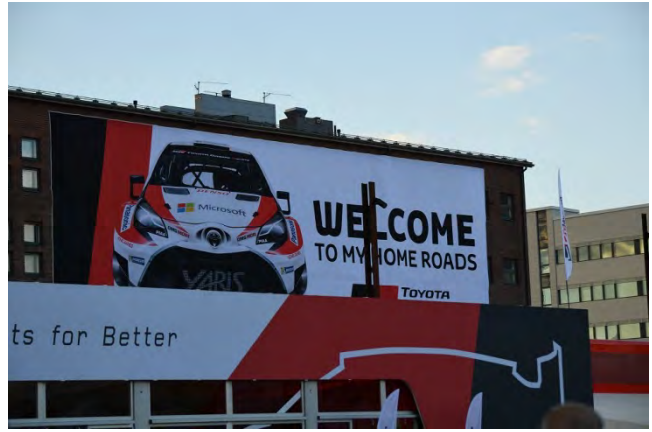


サービスパークの各所にはパートナーのサインが掲出されています！





サービス内には記念撮影コーナーも！



TOYOTA のホームラウンドなので巨大看板でお迎え！



いたるところに歓迎看板



ペーパークラフトのヘルメットをかぶって応援！



小さなファンの大きな声援が優勝の原動力！



TOYOTA GAZOO Racing のホスピタリティブース



ラリー・フィンランドは数多くのクレスト（先の見通せない起伏）があり、ペースノートを頼りにジャンプしながら全開で駆け抜ける！



《トピックス》

TOYOTA GAZOO Racing FACTORY @Finland Jyvaskyla (フィンランド ユヴァスキュラ)



ファクトリーに Yaris WRC のレースカーとテストカー



オフィス入口



ミーティングルーム “Monte-Carlo Rally”・・・カッコいい！



マキネン代表の部屋にはあの方が・・・！



マキネン代表の数々の栄光のトロフィーが展示されています



ファクトリーの外はSS さながらの道が続く

以上